

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項

基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(2) 小・中学生			
施策の方向性	小学生は読書のきっかけづくりや読書の習慣の基礎をつくる重要な時期です。中学生になると、感動や共感を得たり、将来に役立つ本等を選んで読んだりするようになる一方で、読む子どもと読まない子どもの二極化が著しくなります。そのため、学齢が上がっても読書に対する興味・関心を持ち続けることができるように、子どもの主体的な活動や子どもたち同士で読書意欲を高め合う取組を行います。 また、家庭、地域、図書館、学校等、社会全体で読書活動を広げていくことができるよう、保護者への啓発及び家庭・学校以外の身近な場所でも子どもたちが読書に親しめる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介	②読み聞かせ等の推進		
	③読書時間の確保	④読書活動の促進		
	⑤読書目標の設定	⑥調べ学習の促進		
	⑦保護者への啓発			
成果指標	1か月の読書率 ・小学2年生		策定時点	目標値(R9)
			94.2%	98.0%
	・小学5年生		93.7%	98.0%
		・中学2年生	70.7%	75.0%

D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)

	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
評価指標	小学生読書リーダーの養成	年間講座回数	基礎講座3回 交流会1回	基礎講座3回 交流会1回
	図書館利用案内とブックリストの配布	発行ジャンル数	4	4
	「自由研究ひらめきカード」の発行	発行ジャンル数	13	17

主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介	達成状況
	<p>◆今後各学校において、学校図書室のおすすめ本コーナーの充実を図っていく。</p> <p>◆図書館ではおはなし会やイベント情報、おすすめ本の紹介等を掲載した情報誌を発行しており、子どもを対象とした「こぼらら」は、親しみやすいよう表紙にめいろなどのゲーム要素を設けるほか、書評を低・中・高学年に細分化して紹介する本の冊数を読み物と実用書の各2冊に増やした。各対象年齢のおはなし会での配布も開始し、発行回数・部数は年6回(1,200部/回)に増刷した。また、中学生など10代を対象とした「わいわいぱらら」は、子どもたちの読書活動の手掛かりとなるよう、刊行ごとに時節や季節感を意識した書評を中心に構成するとともに、担当者の実体験をもとにしたテーマを設け、読者が紙面をより身近に感じる工夫を行った。発行回数・部数は年4回(220部/回)。対象年齢が上がるにつれ、手に取られにくい傾向が見られるため、図書館の利用登録やおはなし会、各対象年齢の層に積極的に配布を行い、認知度を高めていく。</p> <p>◆図書館では①赤ちゃん向け②幼児向け③小学1～3年生向けの3種類のブックリストと、小学校1年生向けのおすすめの本リスト「よんでよんで」を発行している。今後は、小学校中学年～中学生向けのリストの発行を検討していく。</p>	○

②読み聞かせ等の推進	達成状況
<p>◆学校では、小学校7校、中学校2校で読み聞かせやブックトークを実施しているが、時間の確保やボランティア等との調整が課題となっている。ランドセルクラブでは9割で定期的、1割で不定期に読み聞かせを実施している。</p> <p>◆図書館では、コロナ対策（会場変更・不定期・時短・少人数等）を講じて、小学生向け（参加者641名）のおはなし会を実施したが、不定期だと定着が難しく、物語の世界に集中しづらい様子が見られた。今後はコロナ前の実施方法に戻し、参加しやすく、本を身近に感じてもらえるよう、工夫したい。</p> <p>◆地域貸出文庫では、読み聞かせをする館が16→20館/28館へ増えた。</p>	○
③読書時間の確保	達成状況
<p>◆多くの小・中学校で朝夕などに読書時間を確保しているが、時間数が少ない学校や読書時間をなくしている学校もあるため、読書時間の確保が課題となっている。</p>	○
④読書活動の促進	達成状況
<p>◆小学生読書リーダーを養成するため、主に5年生を対象として、夏休みにまどかぴあでの司書体験や読み聞かせ・ポップ作成の実習と発表などの基礎講座3回を実施した。そのほか、2月にふるさと館での活動展示や交流会及び実践発表を行い、受講生や学校司書の満足度は高いものの、受講時の負担軽減や小学校での読書リーダーの活動環境の整備等が課題となっている。</p> <p>◆小・中学校では、各校で読書リーダーや図書委員等を中心に、独自の読書推進活動が行われた。時間の確保やコロナの影響により、大きなイベントは難しかったが、ポスター等で「子ども読書の日」や「読書週間」を周知する等工夫した学校もあった。コロナの影響による活動制限が緩和されるなかで、引き続き児童・生徒の自主的なイベント企画や活動を積極的に支援していく。</p> <p>◆学校図書室では、支援が必要な子どもに対し、読み聞かせや図書室の利用等に関する支援のほか、関係機関と連携し、発達や特性に応じた選書を継続して実施していく。</p> <p>◆図書館では、おすすめ本のリストと合わせて利用案内を全ての新1年生に配布している。また「子ども読書の日」を含む4/16～5/8に図書館子どもまつりを開催し、読破した本のジャンルによってビンゴをする「図書館deビンゴ」（参加者数：166人）や、ボランティアと協働で「わくわくおはなしひろば」（参加者数：164人）を実施した。初の試みとしてブックトークの回も設けた。また「図書館へようこ！2022年秋×読書週間」を実施し、お楽しみ袋を提供したところ、想定以上に反響があった（一般40袋、児童40袋貸出）。そのほか、ヤングアダルトコーナー充実のため、ヤングアダルト資料を新たに197冊収集した。</p> <p>◆地域では、地域貸出文庫やコミュニティセンター等での読書活動推進イベント等を推進していく。</p>	○
⑤読書目標の設定	達成状況
<p>◆多くの小・中学校で読書目標を設定したり表彰を行ったりしているが、特に高学年以上の不読者を減らすことが課題である。引き続き、イベント等を通して図書室や本に関心を持ってもらえるように働きかけを行っていく。</p>	○
⑥調べ学習の促進	達成状況
<p>◆図書館では児童向けパスファインダーとして「自由研究ひらめきカード」を令和3年度より発行している。令和4年度は新たに4種類発行し、全部で13種類となった。</p> <p>◆図書館から学校への調べ学習支援として、学校の貸出傾向を分析した資料収集を行うとともに、授業用資料を追加購入し充実させた。</p> <p>◆ほとんどの学校図書室に新聞を配架している。授業に取り入れている学校がある一方で、認知度が低くあまり読まれていない学校や子ども向け新聞を設置していない学校があるため、子ども向け新聞の全校配架や図書館だより等での周知を行っていく。</p>	○
⑦保護者への啓発	達成状況
<p>◆ほとんどの学校図書室で図書館だよりを発行している。学校の掲示板やホームページも活用しながら保護者への啓発を継続していく。</p>	○

C 評価

**推進委員会
評価**

◎期待以上
○期待どおり
△もう少し

◆全ての子どもたちと本との出会いのためには、学校での取組が重要であり、多くの学校で読み聞かせや朝読書等に取り組みられているものの、学校によって取組状況に差が生じている。どの学校においても読書に関する取組を大事にもらえるよう、呼びかけが必要。

◆学校司書や図書委員会と協力して読書啓発に取り組んでいる学校でも、読書時間の確保が課題となっている。特に中学生になると、なかなか時間が取れない現状があるため、検討が必要。ブックトークは子どもの意識を変える力がある。ぜひ市内でも広げて行ってほしいが、実施するのはなかなか難しい。ブックトークを実践したい学校司書がいる場合、図書館のブックトークボランティア等から教えてもらえる場があると良い。

◆本での調べ学習は、きちんと校正を経て出版されている本を実際に見て、使いこなせるようになるための手法である。そのうえで、誤った情報を鵜呑みにすることがないように、インターネットで検索した情報が正しいのか信用できるのかを判断する力が養われていく。今後も継続してほしい。

**検討が
必要な事項**

◆学校での読み聞かせの推進（実施主体：市）
◆中学生に対する読書活動推進（実施主体：市、図書館）
◆ブックトーク実施方法（実施主体：市、図書館）

A 改善

**改善に向けた
取組等**

◆市は、小・中学校に対して年度ごとに本計画に掲げる取組の説明及び実施呼びかけを行っていく。

◆図書館では、ヤングアダルトコーナーの充実を図るほか、図書館ホームページでのヤングアダルトページの公開を予定している。今後は図書館の公式Instagramを活用し、中高生に向けた情報発信等も行っていく。

◆ブックトークに関する相談があった場合は、図書館のブックトークボランティアの派遣や講習会の実施など読書活動の推進を図っていく。